

## トリノでの活躍を祈って

～<sup>こくぼ</sup>國母和宏選手<sup>かすひろ</sup>オリンピック出場激励会～

12月16日(金)、登別大谷高校で、トリノオリンピックのスキー競技スノーボード・男子ハーフパイプに出場する國母和宏選手の激励会が開かれました。

國母選手は石狩市出身で、現在、登別大谷高校2年生。14歳でワールドカップに初出場し4位に入賞したのを皮切りに、2005年のワールドカップでは、第3・4戦で優勝するなど、トリノオリンピックでのメダル獲得が期待されています。

激励会では、全校生徒や教職員など約300人が見守る中、同校の竹本将人校長が「國母君の活躍をテレビや新聞などで知るたびにうれしく感じます。オリンピック本番まで体調に気をつけ、自分の力を発揮できるよう頑張ってください」と激励。これに対し、國母選手は「オリンピック開幕に向けてさらにトレーニングを積み、良い成績を目指して頑張ります」と力強く決意を述べました。

この後、國母選手は上野市長を表敬訪問。上野市長が「スノーボードの競技人口が増えるよう、頑張ってください」と激励すると、國母選手は笑顔で上野市長と握手を交わし、健闘を誓っていました。

なお、トリノオリンピックは2月10日(金)から26日(日)まで開催され、國母選手が出場するスキー競技スノーボード・男子ハーフパイプは、12日(日)に行われる予定です。



## 鉾山って、冬の自然も素晴らしい

～冬休みスペシャルウィーク～



1月13日(金)から15日(日)までの3日間、ふおれすと鉾山で『冬休みスペシャルウィーク』が開かれました。

この催しは、鉾山町の冬の姿を知ってもらおうとさまざまな遊びを行う毎年恒例の行事で、残り少なくなった冬休みを多くの子どもたちが楽しんでいました。

参加した市民は、ソリ競争や歩くスキー、たき火deパン焼きなどに挑戦。冬ならではの遊びを満喫した後は、丸太を組み合わせた住居『ティピィ』でココアや焼イモをほおぼり、冷えた体を暖めていました。

また、屋内では、木製の玉を敷き詰めた『木の砂場』や小枝を使った工作、『森のお教室』の展覧会などが行われ、来場者はたくさんさんのプログラムを楽しみました。

## メリーゴーラウンドが回ったよ

～冬休み工作教室～

1月12日(木)・13日(金)の2日間、文化伝承館で冬休み工作教室が開かれました。

この教室は毎年恒例の行事で、子どもたちにももの作りの体験を通して、完成した喜びを知ってもらおうと郷土資料館ボランティアグループ『SLG』の協力を得て行われているもので、初日は『本立て』と『木製パズル』、2日目は『はと笛』と『メリーゴーラウンド』づくりが行われ、延べ48人の子どもたちが参加しました。

『はと笛』づくりでは、木を羽の形に電動糸のこで切るのに四苦八苦。左右に張り合わせ、吹いて無事音が出たときには思わずニコリして何度も吹いていました。

参加した子どもたちは、苦戦しながらもやっと冬休みの工作ができた満足げな様子でした。

